

○昭和40年9月台風24号などで甚大な被害が発生した笙の川・井の口川水系では、気候変動による今後の水害リスクの増大に備えて、以下の取組を実施していくことで、年超過確率規模*の洪水を安全に流下させ、流域における浸水被害の軽減を図る。



※確率規模

笙の川：河口～木の芽川合流点	1/50
木の芽川合流点～黒河川合流点	1/30
井の口川：河口～安堵橋	1/50
よんこく 四石橋上流～大瀬川合流点	1/50

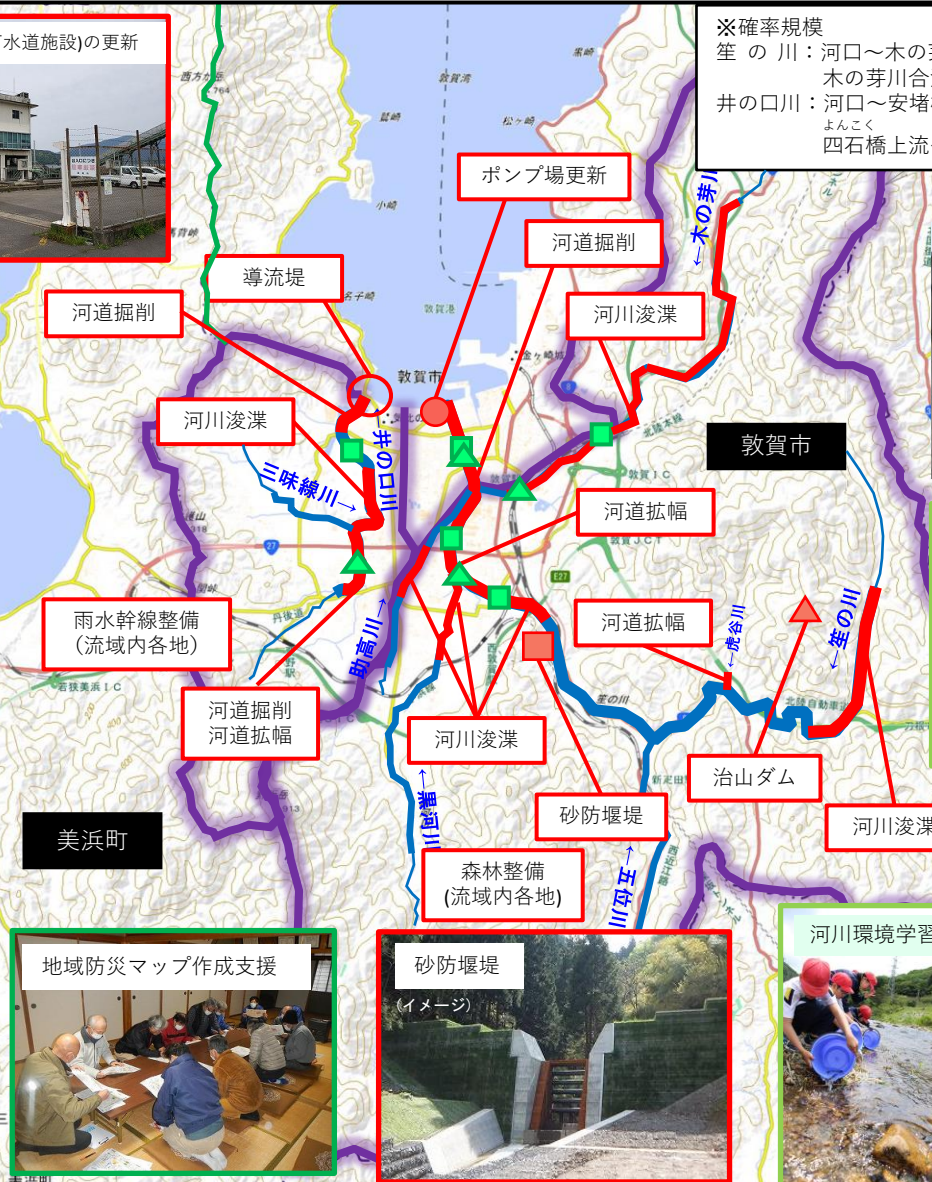


- 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策
- ・河道掘削、河道拡幅、河川浚渫
 - ・森林整備
 - ・砂防関係施設の整備
 - ・下水道施設の整備・更新
 - ・田んぼダムの整備
 - ・ため池の事前放流
 - ・雨水貯留浸透施設の整備 等

- 被害対象を減少させるための対策
- ・立地適正化計画に基づく防災指針の策定 等

- 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策
- ・複数市町を含む流域を捉えた流域タイムラインの作成
 - ・想定最大規模の降雨を対象としたハザードマップの周知・活用
 - ・小中学校等と連携した防災に関する出前講座の取組み
 - ・避難行動のための情報発信
 - ・重要水防箇所の情報共有と県・市・地元による共同点検の実施
 - ・要配慮者利用施設の避難訓練実施と避難確保計画の検証と改善の促進
 - ・氾濫危険水位等の基準水位の見直し
 - ・水位計・量水標、監視カメラ設置
 - ・地域防災マップの作成支援
 - ・水防資機材の配備
 - ・地域・企業の連携による避難場所の確保
 - ・コミュニティタイムラインの作成支援
 - ・ハザードマップ・タイムラインを用いた避難訓練の支援
 - ・関係者間の情報共有体制の確立と情報伝達訓練の実施
 - ・内水ハザードマップの作成 等

- グリーンインフラの取り組み
- ・小学校で稚鮎等の放流体験による河川環境学習
 - ・イサザ、鮎等生態系に配慮した河川工事 等



凡例

— (赤線)	河道掘削・河道拡幅等
● (赤丸)	排水施設
■ (赤四角)	砂防関係施設
▲ (赤三角)	治山施設
— (紫線)	流域界
— (緑線)	市町境界
▲ (緑三角)	河川カメラ
■ (緑四角)	水位計

*具体的な対策内容については、今後の調査・検討などにより変更となる場合があります。

- 笙の川、井の口川水系では、上下流・本支川の流域全体を俯瞰し、県、市が一体となって以下の手順で「流域治水」を推進する。
 - 【短期】井の口川上流部の河道掘削・河道拡幅や本支川の河川浚渫等により、河積断面を確保し災害発生を防ぐ。
 - 【中期】笙の川河口部の河道掘削および下水道ポンプ施設更新により、市街地での災害発生を防ぐ。
 - 【中長期】笙の川の整備計画や下水道の雨水幹線整備が完了することにより、流域全体の安全性向上を図る。
- あわせて、監視カメラ画像、水位情報の提供や浸水想定区域図、ハザードマップの更新等のソフト対策を実施する。

■河川整備
事業費：約90億円※
対策内容：河道掘削、河道拡幅等
※河川整備計画の残事業費

区分	対策内容	実施主体	工程		
			短期	中期	中長期
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	河川整備（河道掘削・河道拡幅・導流堤）	福井県 敦賀市	河道拡幅完成(虎谷川) 河道掘削・河道拡幅完成(井の口川)	河道掘削完成(笙の川)	河道拡幅完成(笙の川)
	森林整備	福井県 敦賀市 れいなん森林組合 森林整備センター等	治山ダム完成		
	砂防関係施設の整備	福井県	砂防堰堤完成	(検討・調整)	
	下水道施設の整備、更新 雨水貯留浸透施設の整備	敦賀市		ポンプ場更新完成	雨水幹線整備完成
	田んぼダムの整備・ため池の事前放流	福井県 敦賀市		(検討・調整)	
被害対象を減少させるための対策	立地適正化計画に基づく防災指針の策定	敦賀市			
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	監視カメラ画像、水位情報の提供	福井県			
	防災に関する出前講座 水防資機材の配備	福井県 敦賀市			
	関係者間の情報共有体制の確立 地域防災マップの作成、要配慮者利用施設の避難訓練実施の支援	敦賀市			
	ハザードマップ等を用いた避難訓練の支援			防災マップ作成完了	
グリーンインフラの取組	小学校で稚鮎等の放流体験による河川環境学習 イサザ、鮎等生態系に配慮した河川工事	福井県 敦賀市			

気候変動を踏まえた
更なる対策を推進